

■金沢市新産業創出ビジョンの実践（令和3年度新規施策）

Society5.0時代に対応した新産業の創出をめざすとともに、市民の快適な暮らしの向上、地場企業の活性化や起業家の輩出を図るため、本年8月に開館する「金沢未来のまち創造館」を拠点に、産学官の連携による新産業創出ビジョンの様々な施策推進に取り組みます。

●金沢未来のまち創造館を開館

最先端技術を活用した新たなビジネスや食・工芸の付加価値の創出と子供達の独創力を育成する拠点を整備

◎スタートアップ・新ビジネスの創出

◎子供の独創力の育成

◎食の価値の創造

●小規模事業者等のデジタル技術活用人材を育成

●AIを活用したものづくり技術の承継

●RPA、AI・IoTやLPWA技術を導入する中小企業等への財政支援

●大学や地場企業と連携した市民生活へのAI等最先端技術の浸透



金沢未来のまち創造館(令和3年8月開設)

担当：金沢市 経済局 産業政策課 TEL：076-220-2204 FAX：076-260-7191
E-mail：sansei@city.kanazawa.lg.jp

■新製品開発・改良促進事業

企業が新製品・新技術・新システム等の開発を行う経費の一部を助成します。新製品等の開発事業については、産学連携コース、単独企業コース、企業連携コースの3種類の補助メニューがあります。また、既存製品を改良する場合の補助もあります。募集期間は令和3年4月12日(月)から6月11日(金)17:00までです。環境(再生可能エネルギー関連を含む)、福祉、医療に加え、令和3年度より、デジタル技術に関する分野の開発事業を重点的に支援します。

■ものづくり実践塾

金沢市ものづくりコーディネーター、製品開発監修者(製品デザイン専攻)、弁理士で作るチームが、中小企業者に伴走しながら、応募企業の事業内容、保有技術に応じて、チームと企業で開発方針・製品を検討し、開発を進めます。詳細は、令和3年4月にホームページ等でお知らせします。
URL <https://www4.city.kanazawa.lg.jp/17031/kougyou/>

担当：金沢市 経済局 商工業振興課 TEL：076-220-2205 FAX：076-260-7191
E-mail：syokou@city.kanazawa.lg.jp

■金沢市ものづくり戦略2015の改定について

本市のものづくり産業の将来像とその実現に向けた10年間の行動計画を定める「金沢市ものづくり戦略2015」は、策定後5年を経過し、製造業を取り巻く環境は大きく変化していることから、令和3年3月に改定しました。本市の強みを活かし、ものづくり産業の持続的発展を図るため、企業の課題解決に向けて様々な施策に取り組んでいきます。

※本編並びに概要版は、市ホームページからダウンロードできます。

URL https://www4.city.kanazawa.lg.jp/17031/kougyou/mono_plan.html

金沢市ものづくり戦略 検索



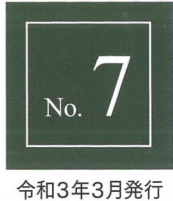
■金沢市産学連携事業運営委員会

事務局

○金沢市経済局商工業振興課
〒920-8577 金沢市広坂1丁目1番1号
TEL 076-220-2205 FAX 076-260-7191
E-mail:syokou@city.kanazawa.lg.jp

○金沢市異業種研修会館
〒920-0377 金沢市打木町東1400番地
TEL 076-240-1934 FAX 076-240-1903
ホームページ <http://www.kanazawa-sangaku.jp/>

金沢市産学連携事業 運営委員会通信



金沢市では、金沢市産学連携事業運営委員会を設置し、ものづくり産業の振興と発展のため、地元企業と大学等の高等教育機関との連携による新製品開発、新技術開発、人材育成を推進しています。

不思議と魅力に満ちたワンダーランド —金沢美術工芸大学ならではの社会連携—

金沢美術工芸大学は美術工芸の専門大学で美術科、デザイン科、工芸科の3科からなっています。学生数の少ない小規模の大学ですが、バリエーションに富んだ専門性の高い教員や発想豊かでユニークな学生たちが数多くいます。これらがまさに本学のシーズといえるでしょう。本学では社会貢献を、教育と研究に並ぶ大学の使命と位置づけ、下記の3つの理念を掲げ地域連携・産学連携を通して積極的に社会貢献を行っています。



新キャンパス アートプロムナード:大学の活動を広く発信するメインストリート



新キャンパス 鳥瞰パース

1. 本学の持つ美術工芸分野の専門知識や技術、社会連携で得られた成果を広く社会に還元します。
2. 地域の産業と積極的に連携を図り、地域社会の活性化に貢献します。
3. 社会との連携活動を体験することで、より実践的に社会に寄与できる人材を育成します。

研究制度では企業や教育機関より研究者・研究経費等を受け入れ、共通の課題について対等な立場で研究を行う「共同研究」と、企業等から委託を受け、委託者の負担する経費で研究を行い、その成果を委託者に報告する「受託研究」があります。

研究体制としては教員の指導により研究を推進し、学生の新しい視点での発想や現実性の高い成果が期待できる「プロジェクト型(課外活動型)」と、ハイレベルで実践的な研究成果が期待できる教員との研究の「プロフェッショナル型」があります。

本学は令和5年に新キャンパスへの移転を予定しており、更に地域に開かれた大学を目指します。現在、コロナ禍によって学内の立ち入りは制限していますが、普段の状況になればぜひ本学に来ていただき学生たちの活動をその目でご覧ください。きっと様々な連携資源を見つけていただけることでしょう。金沢美術工芸大学は不思議と魅力に満ちた、まさに「ワンダーランド」です。

金沢美術工芸大学 社会連携センター

TEL：076-262-3531(代表)

E-mail：shakai@kanazawa-bidai.ac.jp <https://www.kanazawa-bidai.ac.jp/public/social/>

令和2年度の取り組み

先端ものづくり技術交流セミナー

金沢市異業種研修会館や金沢市ものづくり会館での実施とオンライン配信を併用しながら、さまざまな分野における最新技術の動向を紹介しました。

第1回 次世代ロボット技術による生産システム

プログラム不要で自ら考えて動作を制御することができる、機械学習やディープラーニングを活用した次世代のロボット技術による生産システムの開発について、取組事例を紹介していただきました。

日時 令和2年10月8日(木) 14:00～16:30

講師 金沢大学 理工研究域 フロンティア工学系 准教授 辻 徳生 氏
株式会社デンソー AI 研究部・AI エンベデッド研究室 課長 尾崎 智章 氏

参加者数 52名

参加者アンケートより

- ・機械学習の方法や仕組みについて知ることが出来た。
- ・学習データが多くないと高精度な動作制御ができないことがわかった。
- ・AIの活用については、社内だけでなくとまらず学術関係者との連携により進化させることの重要性を感じた。

第2回 地域産業活性化に向けた再生可能エネルギーの活用

金沢工業大学地方創生研究所と株式会社成宏電機が産学連携により行っている、太陽光発電や風力発電、バイオマスシステムの再生可能エネルギーを活用して地産地消を実現する、エネルギーマネジメントシステムの研究開発や実証実験の取り組みについて紹介していただきました。



バイオマスシステム

日時 令和2年10月28日(水) 14:00～16:30

講師 金沢工業大学 工学部電気電子工学科 教授 泉井 良夫 氏
株式会社成宏電機 代表取締役
金沢工業大学 地方創生研究所 主任研究員 夏梅 大輔 氏

参加者数 47名

参加者アンケートより

- ・各地域で独立してエネルギーを地産地消できるようになれば、災害時でも安心ですし、地域コミュニティとしても強いものになると思います。
- ・再生可能エネルギー化の世界及び日本の動向、配電網の独立化の必要性、地産地消の有効活用によるEMSの効果など最先端技術を学ぶことができました。

第3回 マーケティングにおけるビッグデータの活用方法

マーケティング戦略で成果を出すために有効となるデータの活用方法について、集めるべきデータの形やその集め方、データの蓄積によりできることなど、先端技術を活用した事例を挙げながら解説していただきました。

日時 令和3年3月2日(火) 14:00～16:30

講師 北陸大学 経済経営学部 助教 日下 恭輔 氏
北陸大学 経済経営学部 助教 藤本 雄紀 氏

参加者数 43名

参加者アンケートより

- ・データドリブンということの意味を理解することが出来ました。
- ・データ分析のマーケティング活用の事例について考える機会となりよかった。
- ・人間の感情が入らない客観的な事実を継続的に収集することが重要だとわかった。

第4回 アフターコロナで自動車産業が目指すべき戦略

CO2削減が待ったなしで、すべての産業に早急な取り組みが求められている危機的状況の中で、環境課題や技術課題にどのような戦略で対応すべきか、また、100年に一度の大変革といわれる、CASE(ケース)やMaaS(マース)にどう対応すべきか、自動車産業の今後について解説していただきました。

日時 令和3年3月16日(火) 14:00～16:00

講師 愛知工業大学 工学部 客員教授 藤村 俊夫 氏

参加者数 35名

参加者アンケートより

- ・2030年のCO2削減目標に向けての状況を認識できた。
- ・車社会の進んでいく方向がわかり非常に勉強になりました。
- ・HV車の市場が収束していくかと思っていたが、今回のセミナーに参加してみて、まだHV車の市場性が広いことに大変興味を感じた。

■金沢市の補助事業(金沢市新製品開発・改良促進事業)を活用した製品開発の事例紹介セミナー後に金沢市の補助金を活用して、企業と大学が産学連携で新製品開発に取り組んだ事例紹介を行いました。

「発展していく医療現場に寄り添う歩行車のデザイン」
スギモト産業株式会社 代表取締役会長 杉本 昭博 氏
金沢美術工芸大学 製品デザイン専攻 准教授 根来 貴成 氏

金沢美大デザイン講座

ものづくりへのデザイン活用を推進するための入門セミナーと実践的なワークショップのデザイン開発体験塾を開催しました。

デザイン入門セミナー

■今から始めるデザイン経営

プロのデザイナーや金沢美術工芸大学教員よりデザイン経営について分かりやすく解説していただきました。

日時 令和2年9月25日(金) 14:00～16:00

講師 金沢美術工芸大学 製品デザイン専攻 教授 安島 諭 氏
エイジデザイン株式会社 代表取締役 稲垣 揚平 氏

参加者数 35名

デザイン開発体験塾

■デザインワークショップで学ぶ!みんなで考えるウィズコロナ時代の製品企画
オンラインツールを活用したワークショップを通じて、市内企業の参加者同士が課題やその解決策について考え、製品企画を立案し発表しました。

日時 令和2年10月13日～11月17日の毎週火曜日
(11月3日を除く全5日) 各回とも14:00～16:00

講師 金沢美術工芸大学教員等

参加者数 6名

参加者アンケートより

- ・講師や学生の方が親身になり意見や提案をいろいろしてください、とても実のある内容だった。
- ・自身のテーマに当てはめることができたので、今後に活かすことができる。



マーケティングセミナー

製品開発や販売を行うためのマーケティングについてのセミナーを開催しました。

■コロナで変わるブランディング戦略と新たな販路開拓

コロナによって変化した消費行動と、ものづくりにおけるブランディング戦略、新たな販路開拓の手法であるクラウドファンディング等について分かりやすく解説していただきました。

日時 令和3年3月1日(月) 15:00～17:00

講師 金沢学院大学 経済学部 経営学科 教授 大野 尚弘 氏

参加者数 43名

参加者アンケートより

- ・クラウドファンディングという手法からモノ作りのビジネスチャンスが創出できることが理解できた。
- ・消費者を巻き込む戦略が重要ということを感じました。
- ・SNSの活用が重要であることを学んだ。